

健康情報の保管・集計・利用の問題点

研究協力者 信 友 浩 一

(国鉄中央保健管理所)

はじめに

現行の先天異常モニタリングとその要因解析の限界とその解消策の可能性を検討し、昨年度報告した。今年度はその解消策 (Community-based record linkage system) の可能性を probable にすべく、“primary physician” としての産業医の機能と同システムの最高責任者の位置づけを理解してもらえるよう症例検討会などを通じて試みた。

方 法

いろいろの健康問題、例えば不安から心身症・よくうつ・錯乱に至る不適應症状には必ず原因があり、それは構成する複数の要因から成り立っている。従って症例を通じて行政職に「原因診断」の重要性・必須性を理解してもらった。すなわち、病院診断のみでは症例の対症治療にとどまるだけでなく、再発防止あるいは症例と同一条件下の同僚・家族の発症予防には無効であることをポイントとして説明した。

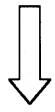
行政職（とくに職員局所属の労務・人事担当者および幹部管理職を中心）を対象に症例告示をくり返した。と同時に情報システム部（本社）にも理解をもとめ、業務化をめざして計画策定（60年度）の準備もした。

結 果

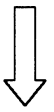
- 1) システム化されている人事マスターの一部を毎月抽出することが実験的にある地方局で認められた。
- 2) 「原因診断」が幹部管理者の間でなじみのあるものになりつつあり、その重要性が浸透しつつある。すなわち原因追求への管理者の抵抗感がうすれつつあるといえる。
- 3) 短期給付情報（レセプト情報）との Record linkage 化の必要性をいうことができるようになった。

今年度の問題点

健康情報保管・集計の security が、community を納得させるほどのシステムに開発できていない。倫理感の高い産業医のみが理想であるが、また現実的でもあるのでその方向で解消していく予定である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

現行の先天異常モニタリングとその要因解析の限界とその解消策の可能性を検討し,昨年度報告した。今年度はその解消策(Community-based record linkage system)の可能性をprobableにすべく,"primary physician"としての産業医の機能と同システムの最高責任者の位置づけを理解してもらえよう症例検討会などを通じて試みた。